

大和文華館

YAMATO BUNKAKAN

No. 03-026-2013作成

改修・保存
美術館・博物館

発注者	近畿日本鉄道株式会社	カテゴリー				
設計・監理	株式会社 大林組 OBAYASHI CORPORATION	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	(株)大林組/建築 日本ファシリオ(株)/設備	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

美術館建築の社会資産としての継承

■改修工事の概要（築後50年の時代対応化工事）

大和文華館は、次の50年を見据えて建物本体の機能更新を中心に築後50年の大規模な時代対応化工事を実施しました。今回の計画を進めるに当り設計目標を、現代の美術館に求められている基本性能の獲得と来館者へのホスピタリティーの提供を実現し、建築の再整備を通して、元設計者「吉田五十八」が設計において提唱して実践した大和文華館の独創的な作品性と文化的価値を継承することに決めました。「自然との共生にある日本文化。美術作品もそうした風土から生まれており、鑑賞自体も自然の趣を感じながらが一番美しく、十分に感じられる。」とする創建時の理念の基に昭和35年に開館し、地域に愛され続けた大和文華館は、平成22年の時代対応化工事により持続可能な社会資産として継承されています。



正面外観

■大和文華館沿革

大和文華館は、奈良市学園前の閑静な住宅街に位置し昭和35年に近畿日本鉄道の創立50周年を記念して開館した美術館です。鉄道会社として日本美術の素晴らしさを世界に向けて発信できる施設を沿線につくることを目標として、初代館長の矢代幸雄の美術館構想に基づき、時代や地域の美意識を代表する質の高い作品を系統的に収集されたコレクションにより形成されています。創建時の理念である「鑑賞のための美術館、美のための美術館」であることは、今も変わらずに引継がれています。設計者の吉田五十八は、東洋の美術は「自然の額縁の中において一番美しく見える」との理念の基に、美術館特有の堅苦しきから脱却した自由で開放的な自然と一体な鑑賞体験のための美術館建築を模索し、他に例のない美術館を実現しました。



配置図

建物データ

所在地	奈良県奈良市
竣工年	1960年(改修2010年)
敷地面積	28,050㎡
延べ面積	2,344㎡
構造	RC造
階数	地下1階、地上2階

■改修内容

1. 美術館機能の向上

展示室は今回の工事により、空気環境（酸・アルカリ等空気環境対策）や完全遮光の付加等の作品保存環境を向上して「文化庁公開承認施設認定」を継続取得しました。大和文華館を象徴する展示室内の「竹の中庭」は創建時からの孟宗竹の植栽をそのままの状態に維持することを前提に施工しました。この孟宗竹の中庭は、これまで同様に自然光と通風で満たされ、これからも大和文華館の象徴で在り続けます。

2. 来館者の安全性、利便性の確保

創建時の理念「自然と調和した開放的な美術館」を継承しながら、文華苑の通路や仕上げ等を改修し、安全で歩きやすいアプローチに整備しました。本館内部でもバリアフリー化を図るとともに、ミュージアムショップの拡張や来客用トイレの改修など、来館者に高いホスピタリティーを提供しています。

3. 耐震補強

耐震補強により国宝や文化財の保護に相応しい構造強度を確保しています。計画にあたっては外部・内部とも創建時の意匠を受継ぐことに配慮しました。新技術を有効的に活用して耐震壁を再構成(撤去・新設)し、施設側の要望を満足するレイアウト変更や機能向上を実現しています。施工面では工事中の収蔵品と書籍等の一部館内保管や学芸活動の継続といった運用面の要望に応える工法を採用しました。

建築設計担当者 総括：神道浩/建築：山田修司、岩垂誠/構造：依藤充男、田中栄次



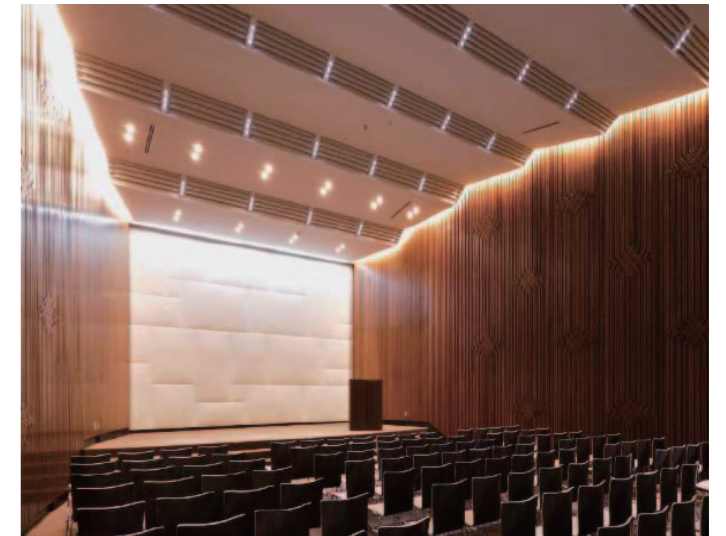
苑路整備



展示室改修



ショップの拡充



講堂改修

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（歴史性の継承）
- Z. その他（耐震壁補強による躯体の耐震性能の向上）